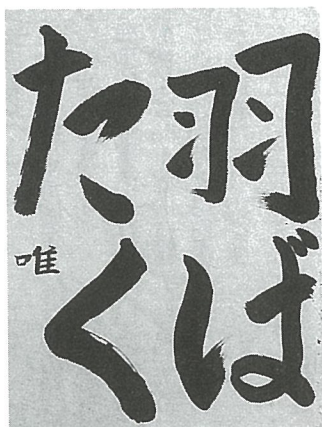




4年1組
小川 ゆい 唯さん

※「羽ばたく」と
言う字の「ば」
がむずかしか
つたです。

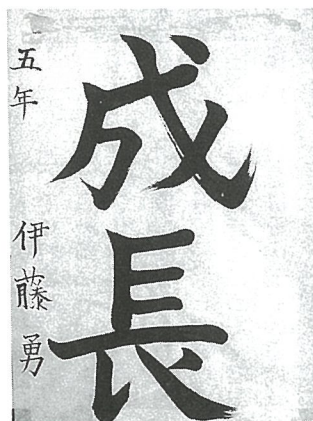


1年
かとうしょうた君

※ぼくが、きよ
うりゆつをや
つつけている
ところです。



『テレビにでたら』



五年

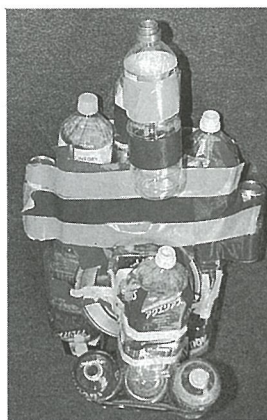
伊藤 勇



5年
伊藤 勇君

※文字の balan
スをとるのが
むずかしかつ
たけど、形が
よくできたの
で満足してい
ます。

あつまれみんなの力作



『ハイパー号』



2年
小川俊輔君

※色のついたテ
ープをはって
カラフルにし
たよ。かつこ
よくできたで
しょ。



6年1組
高蝶美加さん

※私は、二つの
ポケットを工
夫しました。
思ったよりよ
くできて、う
れしかったです。

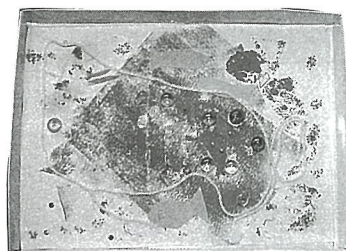


『私のエプロン』



3年1組
桺あやなさん

※わたしはおま
つりみたいな
魚をつくらう
と思いました。
きれいな魚で
しょう。



『海の中はおまつりだ』



評者吟
花ざくろ 戦史 披けば青春あり

短評 椎名しげる

越川せつ子(篠本)
母子像の眼差し優し花菖蒲
椎名 静子(二又)
花ざくろつんと尖りて少女の胸
伊藤 幸枝(尾垂)
ひとときの晴間に燃える花ざくろ
伊藤 定男(尾垂)
銃眼より見下す伊予の谷若葉

川島 孝夫(二又)
行々子空ボチ下げて帰る土手
作者の屈託ない爽やかな印象を中
七から受ける。騒々しい葦切の声
が妙に調和する。

川島 重一(尾垂)
夏座敷男にあぐら許されし
襖・障子を取り払った座敷には寛
ぎが欲しい、夏座敷の解放感を知
る人は今では少ない。

山崎 てい(二又)
七十年経し記念樹の花石榴
昭和の初期に植えた石榴が今年も
花を着けた。記念樹に寄せる作者
の感懐は尽きない。



ひかり俳壇

